⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の503億円の支払超過から、876億円の受取超過となった。収入は、前年同期（２兆2,431億円）に比べ、1,151億円増加して２兆3,582億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆2,935億円）に比べ、229億円減少して２兆2,706億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入16兆3,768億円、支出15兆2,784億円、差引き１兆984億円の受取超過であって、前年同期の9,438億円の受取超過から、1,546億円受取超過額が増加した。

３　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	令和７年度第４・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	384,615	125,609	259,006	371,029	143,228	227,801
国債(１年超)	365,619	105,314	260,305	350,781	121,515	229,266
借入金	18,996	20,295	△ 1,299	20,248	21,713	△ 1,465
国庫短期証券等	934,909	853,855	81,054	898,231	889,715	8,516
国庫短期証券	819,404	758,405	60,999	784,781	776,265	8,516
一時借入金	115,505	95,450	20,055	113,450	113,450	0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、25兆9,006億円の受取超過であって、前年同期（22兆7,801億円の受取超過）に比べ、３兆1,205億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行36兆5,619億円、償還10兆5,314億円、差引き26兆305億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆8,996億円、償還２兆295億円、差引き1,299億円の支払超過であった。

国庫短期証券等の収支は、８兆1,054億円の受取超過であって、前年同期（8,516億円の受取超過）に比べ、７兆2,538億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行81兆9,404億円、償還75兆8,405億円、差引き６兆999億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,505億円、償還９兆5,450兆円、差引き２兆55億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 23,998	△ 137,983	△ 161,982
特別会計等	△ 45,534	267,081	221,546
財政投融資	△ 18,709	55,300	36,590
外国為替資金	876	1,571	2,447
保険	10,984	△ 14,720	△ 3,736
その他	△ 38,686	224,931	186,245
小計	△ 69,533	129,097	59,565
国債等	259,006	△ 7,107	251,899
国債（１年超）	260,305	△ 4,295	256,010
借入金	△ 1,299	△ 2,812	△ 4,112
国庫短期証券等	81,054	△ 121,990	△ 40,936
国庫短期証券	60,999	△ 107,962	△ 46,963
一時借入金	20,055	△ 14,028	6,027
合計	270,527	—	270,527
調整項目	3,933	—	3,933
総計	274,460	—	274,460

㈱１．「一般会計」には、交付税及び譲与税配付金特別会計が含まれている。

２．「調整項目」とは、国庫金が日本銀行代理店の窓口で受払される時点と、日本銀行本店の政府預金が増減する時点との時間的なズレの調整等のための項目である。

３．(B)欄以下の内訳の数字は暫定的なものであって、後に若干変更することがある。

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	令和７年度第４・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	—	△ 2,550
特別会計の債券売・買(△)	△ 88,334	△ 17,795
財政投融資	△ 19,530	△ 12,110
国債整理基金	△ 68,804	△ 5,685
その他	△ 211,960	△ 177,996
計	△ 300,294	△ 198,341

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、30兆294億円の支払超過であって、前年同期（19兆8,341億円の支払超過）に比べ、10兆1,953億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達及び資金返済はなく、前年同期は2,550億円の支払超過であった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売・買の収支は、８兆8,334億円の支払超過であって、前年同期（１兆7,795億円の支払超過）に比べ、７兆539億円支払超過額が増加した。財政投融資の収支は、１兆9,530億円の支払超過であって、前年同期（１兆2,110億円の支払超過）に比べ、7,420億円支払超過額が増加した。国債整理基金の収支は、６兆8,804億円の支払超過であって、前年同期（5,685億円の支払超過）に比べ、６兆3,119億円支払超過額が増加した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、21兆1,960億円の支払超過であって、前年同期（17兆7,996億円の支払超過）に比べ、３兆3,964億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（27兆4,460億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（3,933億円の受取超過）を除いた収支は、27兆527億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、30兆294億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（５兆1,342億円）に比べ、２兆9,766億円減少して２兆1,575億円となった。